



感謝状授与

ファッションショー」を開催しました。

第25回学術総会を主催した横浜メディカルグループの職員とファッション・医療系専門学校の岩崎学園の学生がモデルとなり、各メーカーの様々なSDGsユニフォームを着用し、音楽に合わせてランウェイをウォーキングしました。モデルは、煌びやかなヘアメイクを施され、観客からも拍手や歓声上がるほど大盛況なショーとなりました。

6月24日(土)閉会式終了後には、4年ぶりとなる市民公開講座も開催されました。週末の横浜に集う多くの家族連れにご来場いただきたいという思いから、国立科学博物館副館長の真鍋 真先生に講師をお願いし、「恐竜を知ることで自分をちょっと変えてみよう」というテーマでお話いただきました。真鍋先生は「絶滅した恐竜の歴史から、私たちの暮らす地球について少し考えてみましょう。これからもさまざまな生物が生きる環境を守るためには今から行動を起こさなくてはなりません。」と子供たちに向けてメッセージを発信されました。市民公開講座終了後は真鍋先生への質問や写真撮影を希望する皆さんで長蛇の列ができました。質問をする子供たちのキラキラした笑顔と共に、第25回学術総会はすべてのプログラムを終了いたしました。

最後となりますが、本学術総会開催にあたり、宮崎理事長をはじめ、学会会員の諸先生方、その他多くの方々より多大なるご支援とご協力を賜りました。ここに改めて御礼を申し上げます。また、17年ぶりの横浜での開催に足をお運びくださったすべての参加者の皆様に深謝いたします。

来年度の第26回日本医療マネジメント学会学術総会は福岡赤十字病院院長の中房祐司先生を会長として、福岡県福岡市で6月に開催されます。福岡の地で皆様とお会いできることを楽しみにすると共に同学術総会の盛会を祈念いたしております。

学会賞を受賞して

東北大学病院看護管理室 浦山美輪

この度、令和4年度の学会賞を賜り、大変光栄に存じます。本学会の宮崎久義理事長並びに関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。受賞いた



学会賞授賞式

いただきました論文「大規模病院の退院調整看護師による外来患者への在宅療養支援の現状と支援の実施に関連する要因」は、自身の地域医療連携センターでの活動の中で、外来医師や外来看護師から依頼された在宅療養支援の困難さが研究動機になっています。近年、在院日数の短縮等により、外来化学療法など、通院して行う治療が拡大しています。従来、退院調整看護師は、退院後の療養場所や在宅におけるサービスの調整役を担っていますが、外来治療の拡大により、外来患者に対しても、同様の役割が期待されています。外来の機能分化が図られている現状で、外来患者の疾患の進行や加齢による変化にタイムリーに対応する体制を整備する一助になりましたら幸いです。医療現場の課題として本学会に取り上げていただいたことに感謝いたします。

学会賞を受賞して

東京医療保健大学医療保健学部看護学科 末永由理

この度は栄誉ある賞を賜り、学会並びに関係者の皆さまに感謝申し上げます。受賞論文「中小規模施設における医療安全管理者による医療事故



学会賞授賞式

調査制度関連業務の遂行状況と担当すべき職種－施設規模別、加算別での比較」は平成30年度厚生労働科学特別研究事業として、全国の医療安全対策加算1・2を届け出ている病院・有床診療所3794施設に実施した「医療安全管理者の業務実態および研修に対するニーズ調査」のデータを2次分析したものです。医療安全管理部門に十分な人手を割くことが困難な中小規模施設において、医療安全管理者は多様な業務に加え、医療事故調査制度に関連する業務の主たる担い手として自身を認識し、活動していることがわかりました。本結果から、医療事故調査制度事案に適切に対応していくに